

広報

まつだい

1983/8月

■発行 新潟県松代町総務課 電話 松代7-2220番 昭和58年8月18日 第285号

村の地蔵さま



一、七七〇年(明和七年)
二百十三年前より松代町大字
芋島地内に腰を据える

(高さ三三)

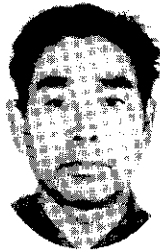
《人口の動き》 男3,207(－1) 女3,273(+2) 計6,480(+1) 世帯数1,762(±0)
8月1日現在 出生7 死亡7 転入5 転出4

基盤整備による 高生産農業への 展開

松代町の 農業を考える

私の意見 ③

産業シリーズ ③②



池尻 若井一男(小林)

基盤整備と書いて、自分の田圃に借金をすると、読むのだそうです。実に世の中には変な読み方の字があるものと面白く聞かせてもらった時がありました。どうせ読み方をかえるのなら農

業を百姓と言わず脳業（脳みそのわざ）と読んで見たら、と私は思う時があります。くだらない前おきはのくらしいにしまして、基盤整備はなぜ必要か又大して必要でもないのか、私なりに考えている事を少し書かせていただきます。

農は国の基ということばを信じて戦後二十一年よりただ一すじに稲作り農業にかけ三十余年、今の様な機械化農業になるなど、ほど遠いものだったと思います。しかし私の考えていたのは、くる時はくるのだと想い信じていたのだと思います。

たとえ四つんばい農業でも小さい田はすべての効率が悪く、一反するも二反するも同じ手間が必要と言える事です。隣接の地主にお願いしては、田よせ風の基盤整備をはじめたのも私の機械化農業の夢があったからと思います。四十七年、二五三号線の工事の時思い切つてブルを入れ一町歩ばかりの整備をしたのが今の池尻の基盤整備が進んだ始まりであると私は自信を持って言いされると思います。自分一人の整備と言うと何よりも農道の不便さとして田の型の悪さでしょう。何とか池尻の田圃を全部一緒に整備する事ができないものかと考えていた矢先、



ほ場整備され機械化農業が期待される池尻地区

町役場の課長さんと係の人達と、話しに来てくれたのが今より八年前の昭和五十年、いろいろな話を聞きそれではどうすると言う事になった時、池尻部落ではとやかく考えている間もなく全員その場でやっていただきましょうとの、二つ返事、池尻部落ならではの即決と言えるでしょう。そして今部落の誰れもが言うことばとして「昔の田圃ではおらは、今では農業はで

きない。」この一言です。

ここで部落を紹介しますと、松代町の中心地とも言える所で国道二五三号線と三五三号線の二本の国道が通る知る人ぞ知る小さい部落で、町で三つしかない信号のうちのジャンボ信号のある所で、わずか十五戸、（三十年は三十戸）の部落ですが、町一番の交通の便の良さがわざわざいって今では半分になった過疎部落です。しかし部落内には何ら過疎を感じさせない所が

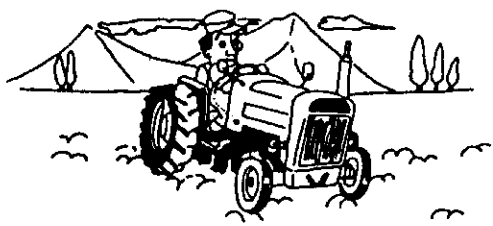
の池尻と、私の自まんするところです。そして実に基盤整備された場合は、八十パーセント以上とは、まさに松代町のトップを行くと言えるでしょう。

しかしそれには、私達の忘れてはならないのは隣部落蒲生のほ場関係者と部落の方々の御協力があったから今のほ場ができたのではないかと、深く感謝いたして居ります。そして今池尻は地域農業集団育成事業、高生産生産組織育成事業、新潟米生産費低減モデル集団育成事業の三つの事業を町よりモデル部落として指定を受け、部落をあげてその事業に取りこんでおります。この様にめぐまれた部落の一人として、私は自信と誇りをもって今農業に取りこんでいます。

最後に私の経営ですが、水稻二四〇アール、ナス、二〇アール、転作大豆一四アール、そして春の田植受託として約三百アール、夫婦二人の手間でこの様な経営のできるのも私の九十パーセントと言う整備田を持つお陰と言えらるでしょう。まだまだ町内いたる所にやらなければならぬ、そして話し合えばできる田圃が山積しています。これからの松代町の農業は今、県の

農業大学校に行つて学んでいる若い後継者達の手によって、農業機械の協同利用あるいは協業化の時代に必ず入る事と私は想います。その時のために今私達に果せられた仕事は、何であるか、真剣に考えて、そのための一つ一つを実行にうつして行くべきではないでしょうか。

上のボタンをかけちがえらると下のボタンはかけられないと言うことがありますが。町農業のこれからのためにも上のボタンをがっちりとかけ、そして基盤整備を効率の良い田圃と読める様に、そして農業も、脳業（脳みそのわざ）と言える時を、一日も早く実現させるべく皆様方の御協力をお願いいたします。



北信越高等学校 陸上競技大会後記

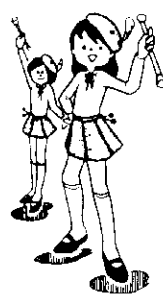


牧田治野さん

（浦田）、そして松代から高田高校に通う山本英樹君（大伏）、の総勢五名を東頸から送り出し、内二名（牧田、山本両君）がインターハイに出場という、県大会に引き続き、県高校陸上界に、驚異の「東頸旋風」を巻き起こし、松代地区出身者がその台風の目となった感じがあることです。各生徒たちの努力もさることながら、近隣の陸上指導の先生方の、冬の積雪、山間僻地何するものぞ」という熱意ある指

導協力体制の成果ともいえます。現在、「治野、美山希に続け！」とばかり松代高校陸上スキー部員四十八名が自己記録更新を目指して、毎日厳しい練習をしています。今秋に予定されている町民体育館の完成を機に、生徒たちの又一段の飛躍を期待してやみません。今後とも、町民皆様の御理解と御協力をお願いして御報告とさせていただきます。

松代高校 内野 信昭



さて、今回の北信越大会で特筆すべきことは、県代表に、我校の牧田、高橋をはじめとして、槍投げで、安塚、松之山分校の布施政子（黒倉）、石塚佳子さん

去る六月十七日、十九日に、富山県営陸上競技場で開催された「北信越高等学校陸上競技大会」に新潟県代表として松代高校三年生の牧田治野（峠）が、女子槍投げに、二年生の高橋美由希（松代）が女子八百メートルに出場、健闘してまいりました。その中で牧田は、六位に入賞し、去る八月一日から行なわれた「全国高等学校総合体育大会（インターハイ）」に出場しました。彼女は、今季、地区大会で、県新記録の四十一メートル八十六センチを出し、全国大会での活躍が期待されたのですが、全国大会では残念ながら記録はふるわず二十四位でした。



全国大会出場の牧田さん

農地流動化及び農機具利用 意向調査の結果について

さる六月に、町内全農家を対象に実施した意向調査の集計がまとまりましたので、その概要を紹介します。

一、農地流動化の意向について

今後の農業経営について経営規模を拡大したいとする農家は全体で一二六戸で一〇・八％となっています。そのうち水田面積を増やしたいとするが七八戸（六・七％）で平均五〇アール

の面積拡大を望んでいます。

これに對して、農業を縮小、廃止したいとする農家は、五九戸（五・八％）で、あとの九八五戸（八四・二％）は現在の規模でよいとしており、規模拡大を希望する農家への農地の流動化を今後どのように進めるか、充分検討していく必要があります。

拡大志向のうち、借りたいたいとする比率は、おおむね半分づつとなっており、縮小

については、貸したいとする人がほとんどで、売りたいとする人は僅かとなっています。

町では今後、この調査をもとに農地流動化推進員の方々の協力を得ながら、規模拡大志向農家への農地の利用集積や有効利用を促進していく予定です。

図 1

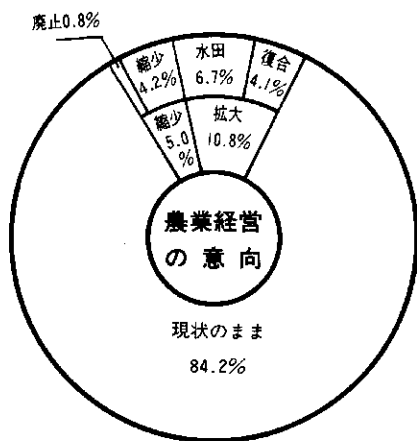
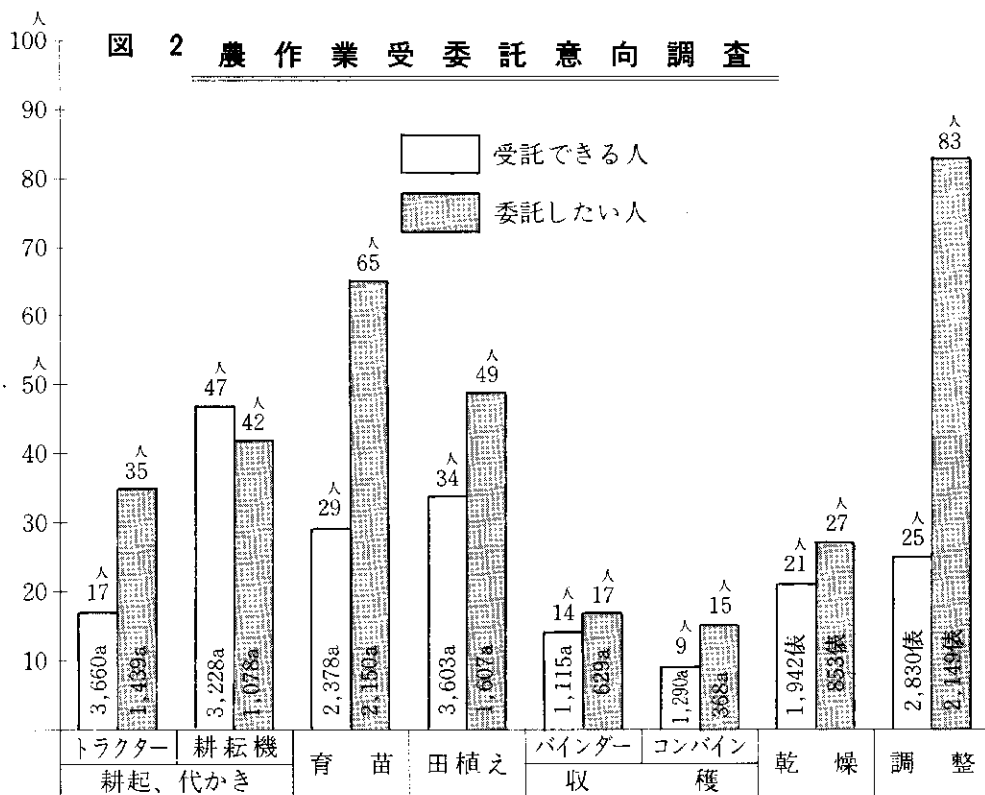


図 2 農作業受委託意向調査



二、農機具利用意向調査について

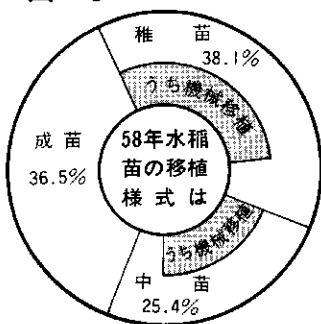
農機具の有効利用を進める一つの方法として、農作業の受委託があります。この受委託に対する農家の意向は右の表のとおりであります。

受委託の希望は二七六戸（二二・五％）と少なく、まだまだ個人対応による自己完結型の農作業形態であるといえます。これは基盤の未整備と自己所有農機具の普及などの要因によるものと考えられますが、生産費の低減を図るうえで、今後検討してゆかなければならない問題であります。

三、苗の植付調査について

今回の調査で参考として、今年の水稲の苗の植付調査を行いました。その結果は次の図のとおりでありました。

図 3



最近、稚苗と中苗が増えて来たことがわかります。これは、田植機の普及により、省力化が進んでいるものといえます。

農作業をたのみたい（委託したい）とする人は、実数で一八六人で、農作業を引き受けられる（受託できる）人の九〇人のおよそ二倍位います。しかし受託面積は多くあるので充分に受託が可能であります。

農協では今後、この調査を資料とし、さらに具体的な検討を行いながら、安心して農作業の受委託ができるよう「農作業のあっせん」を進めていく予定です。

七月十七日、蓬平部落・若井利作さんの飼養している雌牛「ひでき号」がふたごを出産しました。

和牛のふたごは、非常にまれで、長い間の牛飼いの人生の利作さんにとっても始めてのできごと。

「ひでき号」は、いい子牛を生むがだでも逆子が多い牛があてばあさんは、それがいやでオレにまかして茶飲みに行った。

分娩が、無事終わって安心して雌子牛の手当をしていたら、三十分位たった頃、また胎児の伸ばした前足が見えてきて……

たまげて見ていただけ。

これは、きつと牛神様が、牛好きな年寄りにくれたんだ。



と利作（六十九才）さんは、楽しそうに話す。

さて、この「ひでき号」は、昭和四十九年七月生れで、現在九才の女盛り。今回のふたごの誕生で七連産を記録したことになる。



実は、ちょうど分娩一カ月前の六月十五日にさかのぼる。

新しく整備統合された上越家畜市場の発足を記念して上越家畜共進会が同市場で開催されたのである。

「ひでき号」は、この大きな腹をかかえて、当町の代表として繁殖成牛部門に出場した。

万一の場合を考えて佐藤獣医が、朝から付きっ切りでいたの

は、当然である。

上越圏内各市町村の自慢牛の出品だけに優秀つけがたく審査員は苦慮したと審査講評が行われたほどの激戦。

同部門には、二十頭が出品された。「ひでき号」は、大きな腹に引っぱられ背中線の線にちよつと自信がなかったが、みごと優良賞を獲得した。

繁殖育成牛部門に出品した蒔平部落・高橋二一さんも優良賞



（二重の喜び）
若井 利作さん夫婦

を受賞し凱旋気分を味わった。

子牛の生時体重は、雌二十三キログラム、雄二十七キログラムとふたごとは思えないほどの重量です。

7月26日開催上越家畜市場成績

区分	性別	成立頭数(頭)	最高価格(千円)	最低価格(千円)	平均価格(円)	平均体重(kg)	kg当単価(円)
市場計	メス	78	340	87	203,000	249	815
	去勢	98	394	83	242,224	273	887
	計	176	394	83	224,954	262	856
松代計	メス	4	340	193	246,750	248	996
	去勢	4	338	207	268,000	280	958
	計	8	340	193	257,375	264	975

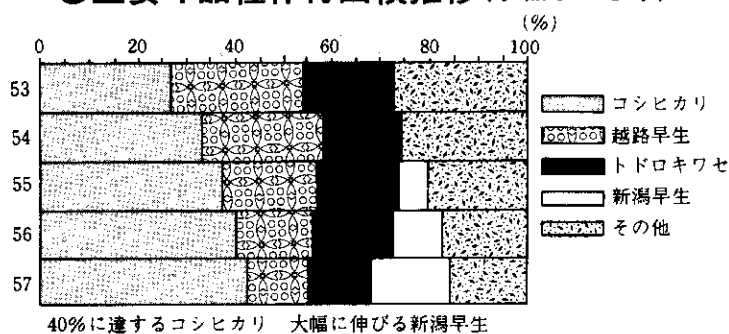
今二頭の子牛は、仲よく母牛の乳に吸いついたり、元氣よく運動場を駆け回ったりで、見ている利作さん夫婦の顔に自然と笑みが浮かんできます。

「生きものが、一番いい。」と言う利作さんにとって、今が大切な野草確保のとき。

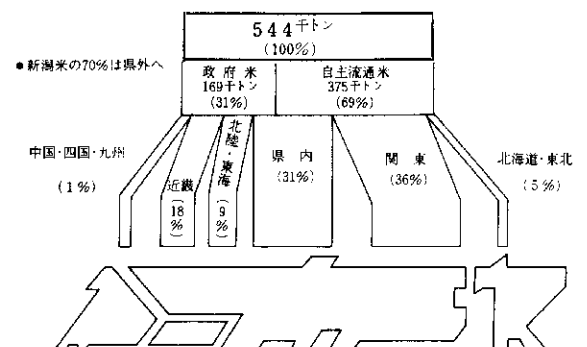
雨上がりの緑の中、草いきれに圧倒されながらも、鎌を握る利作さんの手に力が入ってゆきます。

畜産に関する照会は、産業課畜産係へお願いいたします。

●主要4品種作付面積推移(水稻うるち米)



(出荷期間: 56.9月~57.8月)



一般健康診査を終わって

保健衛生シリーズ

92



七月七日より一週間にわたり一般健康診査を実施しました。老人保健法により、循環器検診、出稼検診、老人健康診査が一緒に行なわれました。

対象三、七十七人で、受診者二、八四九人です。受診率は、七六%となりました。今回より貧血と肝臓の検査が加わり、それぞれ二一六人、一二〇人が受けています。循環器、出稼の受

診者は、去年とほとんど変わりがなく、老人が、半分の受診者となりました。

◎結果お知らせ会にはぜひ出席して下さい。

九月中旬より結果のお知らせ会がはじまります。精密検査を受けた方は、全員お知らせいたします。通知をもらった方は、必ず本人が結果を聞きにきて下



健康相談風景

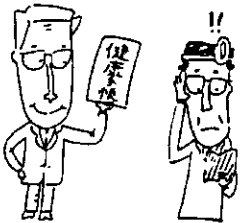


入浴

乳児は新陳代謝が盛んで、汗が出やすく、皮膚が弱いので、ちよつとした刺激でただれたり、傷ついたりしやすいものです。一日一回は入浴させましょう。

特に夏は汗をかきやすく、湿度が高いので、ぎょう水を一日二、三回行なうとよいでしょう。

部屋を暖かくして、お湯の温度は春秋は四十度、夏は三十九度くらいが適温です。食事の直後はさけ、時間は五分以内に終わるようにします。終わったら、ノドが乾いているので果汁、湯ざましをのませます。銭湯は、少なくとも三か月ごろまでは、避けるようにします。その後は人の混まない、きれいなうちに行くようにしましょう。





知事表彰を受賞の交通安全母の会

松代町交通安全母の会 交通安全知事表彰受賞

交通安全に対する熱意が認められて、交通安全母の会（会長 関谷静江）が栄誉ある交通安全知事表彰を受賞いたしました。交通安全母の会は、部落放送を使っての事故防止の呼びかけ、運動期間中の街頭指導、飲酒運転防止等と幅広く交通安全活動を実践している団体であります。交通安全祈願の折鶴を各家庭にある包装紙を使って作成し、全員自らドライバーに手渡しして

安全運転を呼びかけています。心のこもった折鶴はドライバーにも大変喜ばれております。又、手づくりの紙芝居も完成し、保育園、老人クラブなどで発表しようとはりきっています。郡交通安全対策協議会表彰も本年度受賞し、その功績が広く認められており、母の会会員が一丸となって交通安全に取り組んでいる姿勢は称賛に値するものであります。



心のこもった折鶴を手渡す

検察審査会って どんなところ!!

検察審査会は、国民の中から「くじ」で選ばれた十一人の検察審査員により、検察官の仕事に国民のありのままの声を反映させ、これを明るく正しくしようとする国の機関です。

わが国では、検察官だけが被疑者を裁判にかける（起訴する）か、かけない（不起訴にする）かを決めることになっています。

ところで、検察官が起訴した事件については、裁判所がチェックできます。しかし、検察官が不起訴にした事件について、裁判所は、全く立ち入ることはできません。その場合にこれをチェックする役目をもつのが検察審査会なのです。

検察審査会は、被害者などの申立てにより検察官が事件を不起訴にしたことが正しかったかどうか——例えば事件の捜査が不十分であったり、事件の判断を誤ったりなどしていないかを審査するところです。

高田検察審査会事務局

上越市大手町一番二六号

新潟地方裁判所高田支部内

電話〇二五五―二四一

五一六〇番

部落紹介シリーズ

④

中子部落紹介

(紹介者 齊木篤義氏)



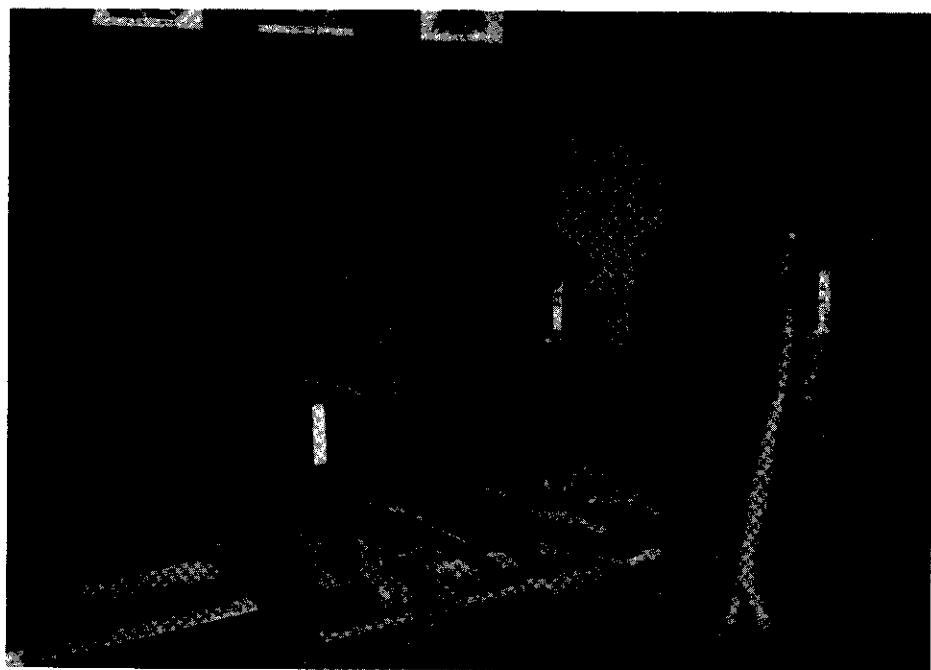
孟地、荒瀬線より中子部落をのぞむ
(道路は、片桐山、滝沢を経て十日町市へ通ずる)

十日町行のバスを犬伏のバス停で下車し、伊沢橋を渡り渋海川に沿って国道四〇四号線(旧長岡・小国・松代線)を上るとモダンな建築の孟地小学校を右

に見て、更に進むと芋島の部落がある。そして次の部落が我中子部落です。この辺の人は、ほとんどの者が「どうぜら」と呼んでいます。手紙の宛名に「藤

蔵平」と書いたはがきや封書が配達されたものです。町の中心部まで、徒歩で二時間、距離にして約八キロメートルと言って居ります。交通の方は犬伏まで五十分、川西町(国道二五二号線)の仲仙田まで車で二十分、歩いて二時間です。昔から小さな部落で、戸数はわずか十戸でした。それが今では七戸になり人口も男女合わせて二十人。姓は、みんな齊木です。終戦前までは農業が主体で冬季は「伊沢紙」の産地として生産量も多く十日町の明石、小千谷縮の反物包み紙として買われて居りました。斉徳斉兼で長岡の間屋で評判だったそうです。又、他に冬の副業としては、鋤柄がたくさん生産され五百丁位が松代の藤屋さんや前田屋さんで売られ、年寄りの方には㊦印の焼印を押した鋤柄が愛用されていたのをご存知の方もあろうかと思えます。戦後葉たばこを大いに作ったのですが、現在では一軒しか耕作しておりません。昭和三十四年頃には、人口七十五人、学童が二十有余人、村に雪中派出所が設けられ小学校四年生以下十人と多く五年生以上中学まで四キロメートルに近い山道を元気に通学したものでした。村の高い所に鎮守の森があり境

内では、芋島の部落、松芋神社高松が一望に見えます。大昔平家の落人が追われて来て住みついたとか伝えられる小字「名林中」と言う地名の所からは、瓦のかけらなど畑の隈から出て来たり、井戸の跡などもあり、塚も今なお三ヶ所残っています。今中子部落も大きく変わりつつあります。それは中子、片桐山線、



紙すきの道具

滝沢樽沢線の道路(十日町市に通ずる)です。土地問題ではなかなか難航いたしました。用地も地主の協力で話し合いがついて、通称「片桐山松の木坂」と中子字下原の間の渋海川に高い長い橋がかかる事になり(橋長八十九メートル、巾員六メートル)昨年左岸中子側の橋台ができて、きあがり本年は、右岸の片桐山

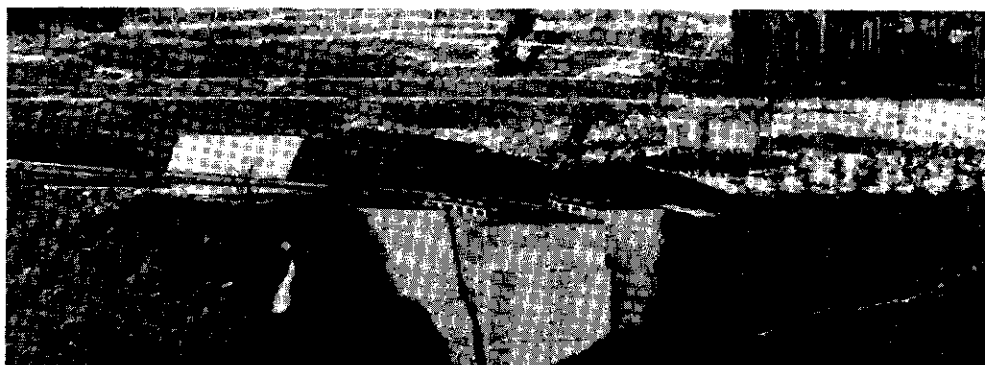
側が工事中です。
昭和四年に架けた木橋も大洪水のために流失され、現在のつり橋も間もなく姿を消す事になります。昭和五十九年は、橋脚（ピア）昭和六十一年の秋には竣工になる予定です。松代町の小さな米山大橋を連想し、松学神社と共に名所になるのではない



特改第4種事業（道路舗装工事）なる

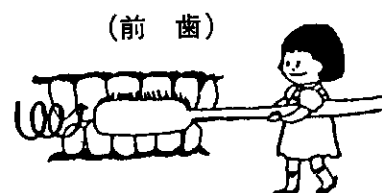
かと期待しております。
部落の中央に沿って巾員六メートルの道路も完成し、七月中旬には道路舗装工事も終り、自宅から東京まで土をふまずに行かれるようになり部落一同喜んで居り、事業の完了後は、中子片桐山、滝沢を結ぶ松代町高速道路一号線と命名したいくらい

です。
なお、県代行業業として事業に関係して下さった、県、土木事務所、町役場の関係の皆さん方に厚くお礼を申し上げ部落紹介を終わります。

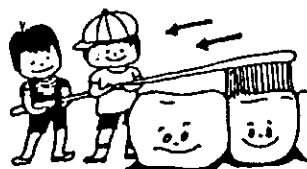


左岸橋台完了

痛くて、治療を受けるにしても時間的経済的負担を伴う虫歯を予防するには、どうしたらよいのでしょうか。
虫歯は砂糖などの糖類と、口腔の細菌、そして歯の三者が合わさってできるのですから、どれか一つを取り除けばよいわけです。最も簡単な方法は、成人病予防の点からも、砂糖を取り除く事です。しかし、エネルギー源である砂糖をとらないわけにはまいりません。ですから、間食の回数や量を少なくして砂糖の摂取量をへらす努力が必要となります。ちなみに、子供の一日の砂糖摂取の基準量は、約四十グラムと言われており、おやつとしては、約二十グラムが適当と考えられています。
しかし、ココローラー一缶で二十四グラム、チョコレート小粒五個で十グラムの砂糖が含まれていて、意外に多くの砂糖が我々の周囲に存在しています。



(前 歯)



(奥 歯)

歯がとかされない様にする事が大切です。
しかし、いくら歯磨きをしてもきれいにならない場所や、個人差があつて、口の中を完全にきれいにするのは不可能です。そこで、歯そのものを虫歯に強い歯に変える事が必要となります。その手段として、フッ素が考えられます。フッ素は歯の表面に作用して、虫歯に強い、即ち酸にとかされない歯質に歯を変える働きがあり、その方法としてフッ素洗口やフッ素塗布が行われています。
これらの手段がそろって初めて、虫歯予防の効果がありますので、さっそく実行していただきたいと思います。

はの百科

小野島歯科医

シリーズ④

町民会議部落懇談会の 開催について

松代町青少年育成町民会議で

は、子どもたちが健康で明るく活力のある社会人として成長することを願い、国・県・町の青少年問題に対する施策に呼応して育成活動を推進しておりますが、一層充実を期すため懇談会を開催することになりました。

会場等はつぎのとおりです。子どもさんお持ちの方はもちろん一般の皆さん方の御参加をお願いいたします。

◎ 大伏地区

日時 八月二十四日（水）
会場 大伏集落開発センター

◎ 松代地区

日時 十一月上旬
会場 町総合センター

◎ 時間 各会場午後一時三十分 ～四時まで

◎ 講師・助言者

安塚警察署
松代幹部派出所 佐藤部長殿
蒲生駐在所 山野寺巡査殿
室野駐在所 佐藤巡査殿
県立松代高等学校 菊田校長殿
町立松代中学校 長赤川校長殿

すべてのおとなが 四つの実践を！

一人で、あるいは地域ぐるみで、次のような実践活動をすすめてはいかがでしょうか。

- ① 子どもをあたたく見守り褒めながら援助する。
- ② 他人の子どもも愛情をもって叱り、厳しく指導する。

- ③ 青少年の手本となるよう行動する。

- ④ すすんで、オアシス運動をすすめる
（オハヨウ、アリガトウ、シツレイしました、スイマセンの挨拶運動）



松代町青少年育成町民会議総会

昭和五十八年度事業の 発足にあたって

会長 小堺 又七

どうなることかと心配された異常気象もどうやら通過でき、明るい見通しもたてられるのではないかと、喜びをかみしめる昨今でございます。

さて、青少年育成町民会議も発足四年目を迎えました。ほぼ計画通りに推進できたのではないかと考えております。偏に町民各位のご理解とご協力の

賜と、心から厚くお礼申し上げます。

去る七月十八日、第四回の総会を開催し、五十七年度の事業報告と、決算のご承認をいただきと共に、本年度の事業と予算についてのご決議をいただきました。東の間の梅雨のはれ間という、非常に貴重な半日であったにも拘らず、七六名という多数のご出席をいただき（五六年も五七年も五六名）極めてご熱心に、しかも建設的なご意見をお聞かせ願えたことは、ほんとうにありがとうございます。その席上、私は大要次のようなご挨拶を致しましたが、それをここに重ねて記述するのは、我松代町の現状を会員は、もちろん、全町民にご理解いただきたいからでございます。

一、会員数の増加について

五十五年七月発足当時は三十九名でありましたが、今回は一七六名となり、三年間に約三十％の増加をみる事ができました。これは、青少年問題に対する町民の関心の高さを示すものとして感謝にたえません。全世帯の十％という第一目標は達成できましたが、町ぐるみの町民会議というにはまだまだ程

遠いものがありますので、ふらつてご入会いただき、ご高見を承りたいものと念願致しております。ここで改めて申し上げます。このことは、四年連続・三年連続・二年連続の会員が百名を超えているということです。

こうした熱意あふれる同愛の士に支えられて、目的達成に一層の努力を誓うものでございます。

二、少年非行の現状（町内）

(1) 昨年中学校で発生した、シヨッキングな事件は、こうした山村にも時代の波は、容赦なくおしよせるものかと愕然とさせられました。が、学校当局が時期を失せず敏速な処置をとったこと、警察が適切な協力と指導を行ったこと、青少年が実りなき非行に自省を加えたこと、全町民が再発防止に全力を傾けたこと等々によって終熄の方向にむかっているということ。

(2) 性非行の続発は、青少年の心身に及ぼす将来への影響のおそろしさを考える時は、誠に憂慮にたえないところでありましたが、学校側の対応と本人の自覚、父兄の関心が高まったこと等によって、根絶の方向に歩みつつあるということ。

(3)

非行防止の一環として延十回の夜間パトロールを実施しましたが、それに加えて父兄、環境の監視の眼と、青少年自身の反省とによって昨年は夜遊び（深夜）少年が全くなくなったという池田部長のお話があったということ。

(4)

去る七月七日、中学校で学校警察連絡協議会があり、小中学校の校長、生活指導の先生と警察官）私も出席致しました。夏休み中の校外生活をどう指導するかということがテーマでしたが、その席上、安塚警察署少年防犯課の発表されたところによりますと、我松代町の少年犯罪は、昨年に比べると激減し、郡内でも最少の三件にとどまり、（人口比では夏に少なくなる）刑法犯、特別法犯の十件はゼロという好成績であったということです。

以上は、私が知り得た松代町の実態であります。町ぐるみの健全育成運動に、ほのかな曙光が見えそめたといえるのではないのでしょうか。私達はこうした事実の上に立って、単なる非行防止にとどまることなく、積極的、且、自主的に社会の一員として資質を体得するよう運動を展開する所存でございます。

本年度事業につきましては、

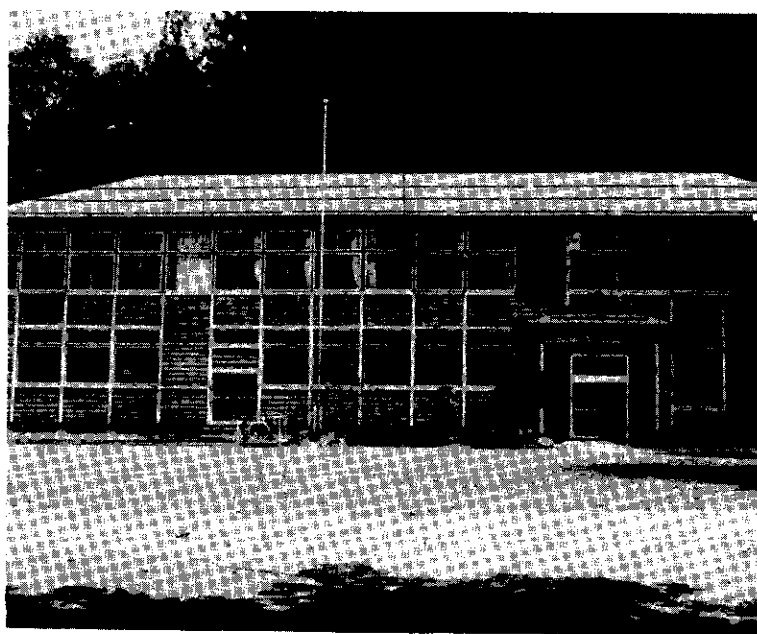
計画に基いて、既に実施に移されたものもありますし、地区懇談会も今月中に三会場実施の予定でございます。部会同様多数のご出席をいただき、ご意見を拝聴致したいと存じます。本年度の新工事の一つとして標識を設置することとしました。町ぐるみでとりくむ姿勢を明示すると共に、これによって全町民の意識を高め、実践に向って大きく一歩をふみ出したいという願望からでございます。

新年度事業の発足に当り、一言申し述べまして一層のご協力をお願い致します。

北山の地で

中村真寿美

三月二十六日、この松代に、生まれて初めて足を、いえ車をふみ入れました。道の両側はず高く雪が積まれ、北山小学校のグラウンドは、まだ三メートルもの雪が、大切に残されていた。あれから四ヶ月が、あつというまに過ぎ去りました。私の出身地は、隣の高柳町、土俵月来の渡り鳥のような生活



緑の林 白い雲
風やわらかく学び舎の
窓辺かすめて小鳥さえ……

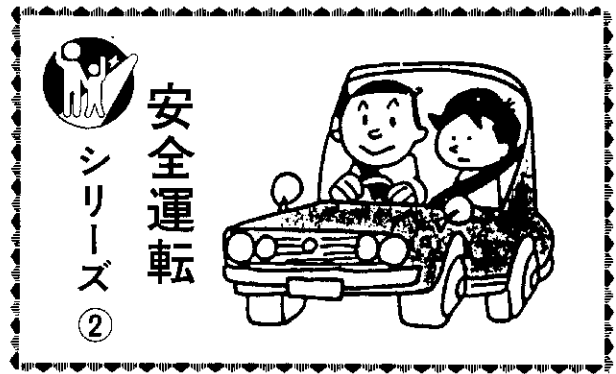
をしています。が、今はもう、すっかり「田野倉の住人」になりきり、大きな顔をしています。

まず、私が一番感動したこと、は、ブナの芽吹きすばらしいことでした。学校のまわりのブナ林は日に日に色をつけていきます。灰色から赤、そして薄黄緑。そのうちに鮮やかな黄緑が萌え出て、ブナ林に入ると、身体全体緑に染まる様な感じがします。まる一日、山菜採りにうち込みたいほどでした。

この自然の中で育った子供達

の元気さも格別です。車で移動している私には想像もつかないことですが、実に良く歩きます。登下校中の中学生の姿は、自転車にしても、歩きにしても本当に真剣です。現代っ子は歩くことを嫌うといいますが、友達の家遊びに行く時も坂道を越え、学校に来るにも頑張つて歩く子供達の姿は、たのしいです。素晴らしい自然の中で、健康に育つ子供達は、瞳をキラキラ輝かせ、私を見つけてくれます。私の生きがいが見つかりました。

1—ルール守って損はない—
 ルール違反しても、安全であればいいじゃないか……とうそぶく運転者もいるようですが、ルールを無視して事故に至るケースが多いという事実を考えるとルール順守は防衛運転の重要な条件です。例え、法規を守らず幸いにして事故を起こさないですんだとしても、危険や余分な緊張を伴い、あげくは違反に問われることになるのですから、ルール違反は「百害あって一利なし」です。



2—操作に慣れても、運転に慣れるな—
 運転操作に熟練することは、確かに安全運転のための重要な条件です。しかし問題は、操作に慣れ、無意識反射的に必要な操作ができるようになると共に運転にも慣れてしまいがちなことです。「慣れ」による運転は

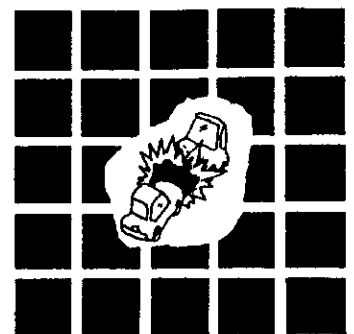


無意識反射的であるだけ「確認」が省略されます。運転の安全性を確認することまで省略したのでは危険の上ありません。操作に慣れても、心には常に初心者マークが必要です。

3—スピードに支配されるな—
 防衛運転上、スピードのコントロールというのが最も大切ですが、どうも、ドライバーがスピードをコントロールしているのではなく、スピードの魔力に負けて、スピードに支配されてしまうドライバーが多いようです。走らせた車は、必ず停止させなければなりません。しかし走っている車はすぐに停止することができません。そのことをいつも念頭においてスピードをコントロールしましょう。

5—雨中の長時間走行
ブレーキの効きに
要注意—
 水たまりや雨の中を長時間走行すると、車輪がびしょぬれになり、

4—交差点には何かがある—



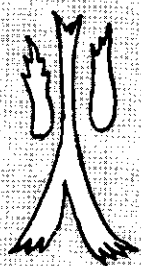
図の白い線が交差するところに薄黒い、くもりが見えませんか？ 実際には、そうしたものが印刷されているわけではありませんが錯視という現象によって見えるわけです。実際の道路の交差点でも、この錯視現象のようには交差点には何かがある！と考える必要はありません。



ドラムとシューの間に水が入り込み、ブレーキの効きが悪くなったり、ほとんど効かなくなることがありますので注意が必要です。これを防ぐには、走りながら、時々軽くブレーキを踏み、ドラムとシューの摩擦熱で入り込んだ水を乾かせてやることによりブレーキの効きを回復してやって下さい。



(お年寄りを交通事故から守りましょう)



今日も 今夜も

の用心

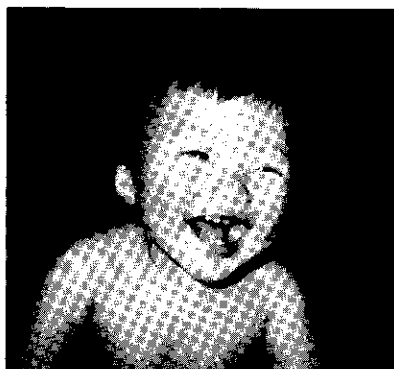
防 災
シリーズ ①⑥

夏場には、火気の取扱い量は少なくなりますが、良い天気が続く関係で空気も乾燥し、チョットした火でも火災につながってしまう恐れがあります。

火に人間の心のスキを見せないよう、十分注意して下さい。

タバコの投げ捨て、寝タバコ、花火等には、特に注意が必要です。

“点検は 防火のはじまり しめくくり”



戸籍の窓口

七月受付分

げんきなよい子に(誕生)

高橋亜由美 父勝美 母美美子
(三女・萌平・抜の前)
柳つかさ 父秀昭 母眞由美
(長女・大伏・三浦屋)
池田吉聡 父岩夫 母京子
(長男・田野倉・杉原)
相澤優香 父清 母栄子
(長女・松代・カプチーノ)
菅井那弥子 父寿雄 母実智江
(長女・菅島・こちね)
菅井 誠 父藤延 母八千代
(二男・菅島・佐吾院)
京谷ひとみ 父雅彦 母淳子
(長女・松代・高校職員住宅)

秋山カウ 78歳 清水 利平
市川ツル 81歳 松代 橋場
小堺キミ子 49歳 儀明 沢
山本榮一 54歳 大伏 莚年
櫻澤清盛 74歳 松代下の島住宅
西潟ノブ 82歳 福島いわかた
柳ミヨ 91歳 菅刈鍛冶屋敷

ご冥福を祈ります(死亡)



台風

が近づいたら!!



※ ラジオやテレビの予報に注意し、早めに対策を!!

- ☞ 停電に備え、懐中電灯やトランジスタラジオを用意、予備電池も。
- ☞ 飲料水の用意、幼児のいる家庭では粉ミルク用の水も必要。
- ☞ 建物の補強を再確認。
- ☞ 貴重品や現金はまとめておこう。
- ☞ 医薬品を忘れずに用意しておく。
- ☞ 火気を使用しないよう注意する。電気・ガスの元栓を切る。

※ 心理的には、いままでたいしたことなかったから今度も…と考えがちだが、それは当たらない。判断は、その時その時の情報に基づいてすること。

(風速と被害の発生状況)

- 風速15m……とりつけの悪い看板やトタン板がとぶ。
- 風速20m……子供は倒れ、大人も身体を傾け、やっと歩ける。
- 風速25m……煙突や屋根瓦がとび、アンテナが倒れる。
- 風速30m……雨戸がはずれ、しっかりしない家は倒れる。

文芸



しづみ句会

草に置く露を蛸とまがうなり
先導に露払い立つ墓まいり
カーブする川岸はみな合歡の花
防犯灯消え紫陽花の朝となる

紅茶

滝を背に銀婚記念写真撮る
夏座布団並びて客のあるらしき

炳史

大川の本性見たり梅雨出水
光彩の消えて音する遠花火

枯水

早苗饗の壁に挿したる休み鎌
川蛙涼しき声をふところに

淡水

荒梅雨の夜水見廻る棚田かな
穂孕むや豊かに露をふくみ居て

一元

上州路段々畑の麦の秋
孫つれて涼む夕べや橘の上

公明

夏羽織はおりし母の品のよき
食い初めの孫健やかにむくげ咲

茶水

鎌跡の清々しさや施餓鬼寺

八千代

臥す姑に梅漬け習う俄か主婦

きく代

夏祭り祝砲に散る鳥の群れ
梅雨空を見上げ戻りて傘を持つ

喜沙

胡瓜揉み三十年の妻の味

日は西に我が影法師踏み帰る

嘉橘

梅雨長し河鹿の声をまだ聞かず
通し鴨湖の藻くずに巢作りぬ

常仙

川添いの土手にあやめの美しく
室野神社石段長し濃紫陽花

美根

改築の庫裡に戻りし夏炉かな
爽やかにベルを鳴らして始発駅

六花

蒲生句会

亡妻植えしトマト豊に色付けり
甚平翁明治を語り酌み交わす

嘉橘

空弁当枕に土工山毛櫨木蔭
しよんぼりと草喰む牛や梅雨牧

紫煙

店頭に値引きの西瓜居坐れり
夏蓬干しおりインコ縁に啼き

耕山

五十路の旅枇杷の実れる北陸路
虫籠を抱いて寝る子の顔無心

折人

螢火に顔を照らして闇深し
声もたぬ螢入りくる夕餉刻

耕人

夏ぐみの低き処はみな挽がる
漬茄子の塩梅合わぬ夫婦かな

昇逸

五十肩氣遣い届く暑氣見舞
箸置けば胃の腑におちる心天

月日

鯛や風の通える山毛櫨木立
片蔭に法面切る土方並びぬ

鐵堂

初桃の紅もまだらに熟れ初めぬ
山頂の城近々と梅雨晴間

ふさ女

短歌

春から夏へ

西潟 まさを

ストープを掃除したまま使わず
にひと冬終わりまんさくが咲く

からす二羽何かあるらし田の畦
でたわむれ遊べり声もださずに

土の中の何かが燃えたつ炎の如
く姫石合咲けりあかく眩しく

百

青紫蘇の芽を摘み朝の食事せり
ほのかな匂い静かな余生

ひげをそりただそれだけで何も
せず一日昏れるそんな日もあり

朴の木のを葉を動かしてわたる風
白い大きな花も動けり

園芸一口メモ

Ⅱ 松代園芸愛好会

うえかえ

(一) うえかえの必要なわけ

盆栽に植替えは絶対の必要条件です。なぜならば、盆栽は、小さな浅い鉢の中で、生存にたえ得る最少限度の土で生きており、しかも、その成長度は樹種や樹令によってちがいますが、数年の間には根がいつぱいのび、土中の栄養をとりつくし、もはや、新根をおろす余地がなくなり、そのままにしておけば、ついには水分も吸収できなくなつて枯死してしまふからです。

(二) 用土の配合割合

① 松柏類 赤土五 砂五

② 雑木類 赤土六 砂三

③ 花物・実物 赤土五 砂三 腐葉土一

松柏類の場合は、樹の勢いを抑制し、枝先の徒長を防ぎ、古木老樹の趣きをだすのが目的です。また、砂を多く用います。

雑木類は松柏類より水分を欲するので赤土をやや多く混ぜます。また、多くの花を咲かせ、実をならせようとする樹種は、保水力・吸水力のつよい土壌を多く使用します。

なお、植替えは遅くとも十月上旬までに完了すること。

